

「クブチ砂漠の大砂丘を越える」 2006年8月



●2006年はクブチ砂漠で雨が降りました。雨天のために気温が30℃と低かったため大砂丘を3つ超えて視察ができました。黄河の岸辺に近いところではわずかでも植物と昆虫が見られましたが、1.5kmも進むと砂丘の連なる砂だけの大地が何百平方キロも広がります。

塩類集積 「放棄された圃場」 (2005年7月)



●ここは昔、管理された圃場だったようですが、今は塩類集積により放棄されています。白く見える部分は塩類が集積して凝固している部分です。このような状態になれば作物は育ちません。これも乾燥化、砂漠化の現実です。

管理された豊かな「穀倉地帯」 工部局農業センター



●これは「オウ・ショウクン」のお墓の上から見た穀倉地帯です。雨量は少なくとも地下水を利用して管理をすれば作物が豊に実るそうです。しかし地下水の水位が低下して新たな問題が発生しています。

内蒙古農業大学との「高大連携」



●これは、2005年に高大連携として内蒙古農業大学を訪れたときの写真です。ここでは、学院長のワン・ミンジュ博士の歓迎を受け、「砂漠化進行について」講義をしていただきました。また環境問題に関する質問にも答えていただきました。砂漠化が進行すれば私たちの生活はどうなるかとの質問に、「人間の生存が不可能になる」と答えられたこと、また「どんなによい自然環境でも周辺環境が悪化すれば影響を受ける」と話されたことが印象に残りました。また海外の大学との高大連携で学院長からの講義されるのも日本で初めてと聞きました。

内蒙古農業大学での記念撮影



●学院長のワン・ミンジュ博士とシー・フーリン教授を囲んでの記念写真です。蒙古農業大学は、中国政府から国家重点研究校として指定され、砂漠化防止のために世界中の多くの大学と提携し交流しています。日本の大学では東京大学、京都大学などの8校の国立大学と学術交流や共同研究をされています。

砂漠化の進む「シラムレン草原」



●これは視察に行った乾燥性の「シラムレン草原」です。昨年は特に雨が少なく植物の育ちがとても悪いそうです。また人間が歩くだけで植物が育たなくなり砂漠になるそうです。乾燥化により地表の植物がなくなれば風によって吹き飛ばした土が黄砂となって日本へやってきます。近年日本へやってくる黄砂が増えたのも砂漠化・乾燥化が原因だと言われています。

砂漠化が進む草原 2006年8月



●これはシラムレン草原の乾燥化と表土が風により吹き飛ばされることを防ぐために、実験的に防風林としてポプラを植林したところだそうです。しかし防風林の効果が発揮されるまでには長い年月と管理が必要だそうです。また森林は森林へ、草原は草原に回復することが重要でこれはあくまで実験としての防風林です。

シリンホト草原(1998,8月)

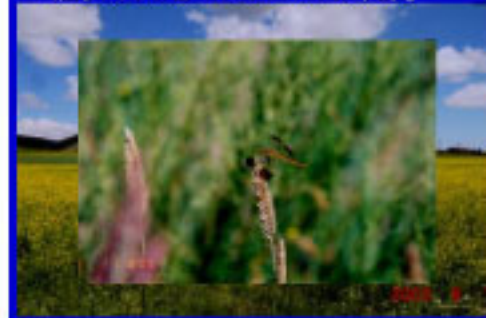
豊かな草原に放牧された「ラクダ」



写真資料は留学生の方より

●数年前の豊かな草原で草を食むラクダの群れです。シリンホト草原は中国とモンゴルの国境近くにあり、人口密度の少ない地域です。また中国と旧ソ連との冷戦による緊張が長年続いたため、全く開発がおこなわれなかった地域です。写真の資料は留学生の方からいただいた物です。

肥沃な大地「シリンホト草原」



●そのためシリンホトの草原は人為的な開発が原因による砂漠化はありませんでした。画面は2003年8月のシリンホト草原です。今も豊かな自然の生態系が残されています。

シリンホト草原へ迫る「影」

周辺の大規模砂漠化により環境が変わる



●先ほどの写真から180度振り返った景色です。水をたたえる湖が自然の豊かさを育んでいます。地平線の一部に砂丘が見えています。近年急速に拡大し草原が砂に飲み込まれています。この現象はシリンホト草原の周辺で起こっている乾燥化・砂漠化が影響与えているためで、人間による開発や自然破壊だけが、原因とは言えなくなっています。ワン・ミンジュ博士のいわれた「どんなによい自然環境でも周辺の環境が悪化すれば影響を受ける」との指摘どおりです。日本も周辺各国の環境が変化すれば影響を受けます。日本の未来がとても心配されます。



『呼和浩特市の育苗圃』

●フフホト市の育苗圃です。ここでは砂漠化進行を防ぐために植林で使用している苗木を生産している、と責任者のケイ主任から説明がありました。私たちが植林した油松やアズミ以外にも、臭い柏、ポプラなどの苗木も生産しているそうです。

生産される「苗木」は、年間約1億本
中国全土で砂漠化防止の植林に利用



●今年の春に種まきされた油松の苗木です。小さなビニール袋に1本ずつ土と一緒に入れられ小分けされています。年間1億本の苗木を生産して出荷するそうですがすべて手作業でおこなうため大変だそうです。

呼和浩特市の自然環境回復政策



●植林作業が終わりフフホト市での緑化の責任者であるケイ主任へ、支援のお礼と20本ほど、植え残した苗があることを伝えたときに「皆さんのように他の人のために木を植えて汗を流した活動は、植えた面積や本数が問題ではない。今日、協力して植林した第一中学校の生徒が10人の人に話す。それを聞いた人が、またたくさんの人に話すだろう。皆さんの心が多くの人の心につながり植林に協力する人が増える。シェシェ。」と答えられ、また自然環境の回復には膨大な時間と労力が必要だが取り組まなければならないと話されたことが強く印象に残りました。

天堂草原(Can Yuan)運動

国際協力により広がる「草原の自然環境保全運動」



●砂漠化が進む草原を豊かな草原に回復するために、国際的な協力により数年前から「天堂草原」というNGO活動が始まりました。世界各国の環境への関心が高まり環境を回復するための技術協力や資金援助などが国際協力により進められています。

表敬訪問「緑の親善大使」 2006年8月



●2006年のフフホト市人民政府の表敬訪問では三次中央ロータリークラブの皆さんと協力しておこなった募金を副市長さんへ寄贈しました。皆さんから寄せられた善意を植林のために役立てると話されました。小さな協力や努力が環境を守り保全していくためには重要です。

環境を守る



砂漠化・乾燥化の原因
森林伐採・家畜の過放牧
・農地の開発

本当の大きな原因は

地球温暖化
です



地球の危機 砂漠化など環境悪化

母なる地球で日本を育んでくれたロー



私たちの地球が壊れていく

日本の輝く未来のために

1. 環境問題への関心を高める情報発信
2. 身近なことから生活を見直そう
3. 小さな積み重ねの努力と協力

みんなの「心」と「心」をつなぎ、
自分の愛すべき故郷と、
美しい日本を守ろう。

- ストップ・ザ・黄砂で取り上げられている黄砂は地球の砂漠化・乾燥化が原因で発生します。
- 中国の森林伐採や家畜の過放牧、農地の酷使により砂漠化が進み日本へ飛来するといわれていますが、本当の大きな原因は地球の温暖化です。

植林地での記念撮影 2006年4月



●最後に、私たちの活動を報告できる機会と募金活動にご支援とご協力をいただきました三次中央ロータリークラブの皆様。また海外研修旅行へご支援ご協力をいただきました広島県教育委員会をはじめ各関係機関の皆様、広島県立三次青陵高等学校緑が丘同窓会の皆様、NPO法人グリーンハット基金元鳥取大学遠山まさお先生、フフホト市人民政府の皆様、フフホト市第一中学校の皆さん、団長を務めていただきました広島県立庄原実業高等学校梶原校長先生と広島県立三次青陵高等学校関戸校長先生、同行した各校の生徒の皆さんと引率いただきました先生方に感謝いたしまして報告を終わります。ご静聴ありがとうございました。

- 地球の衛星写真です。私たちの住む地球が環境の変化で壊れています。地球にすんでいる私たちの日常生活が温暖化を引き起こしています。
- 昨年12月に、地球温暖化の問題を取り上げた「不都合な真実」という映画が公開されました。ゴア元アメリカ副大統領が温暖化による地球の危機を多くの事象をあげて警鐘を鳴らしています。
- 研修旅行を終えて広島空港から帰宅するバスから見える緑の山々と青々と実る田畑の作物を見て、ふるさとのおぼろけを実感しました。日本の豊かな自然を将来に残していけるように守りたい。自分が生まれ育ったふるさとを守りたいと強く思うようになりました。

- いま私たちにできることは、地球の環境に与える負荷を軽減し地球温暖化を防止するよう日常生活を見直し、そして持続できる開発への協力だと思います。そのためには誰もが、さまざまな環境問題について関心を持ってもらえる情報発信。省エネやリサイクルなどの生活の見直し。私たちそしていま自分にできる努力と協力が大切だと考えます。
- この活動を通して地球環境問題を考えたり、学校では体験できないことを学ぶことができました。また自分の進路を考えることができました。ある者はさらに環境について学びたいと考え、またバイオテクノロジーで砂漠や塩類に強い穀物を開発したいと考えたり、異文化理解や国際政策を学び国際協力を進めたい、さらに環境に負荷をかけないエコ商品の普及を経済を学ぶことで世界に広めたい、省エネの技術や新しいエネルギーの開発を進めたいと考えて進学します。
- 私たちは5名とも卒業後は別々の進路に進みますが、これからも環境を守る大切さを伝えるとともに、大勢の仲間とフフホト市を訪ねて植林を進め「美しい国、日本」を未来に残す活動を続けていきたいと考えています。

